

Advance Care Planning

人生会議とACP

～Good LifeからGood Deathへ～

日時

7月11日(土) 14:00～16:00

会場

豊中市医療保健センター 3階会議室 (同時オンライン配信あり)

公共交通機関でご来場ください。

●大阪モノレール「少路」駅下車 西へ徒歩8分

●阪急バス「上野西3丁目」下車北へ徒歩3分。豊中駅から②番乗り場47系統千里中央行き、豊中駅から③番乗り場35系統桃山台駅行き、桃山台駅から④番乗り場35・36・37系統豊中行き

講師

医学研究所北野病院 緩和ケア科 部長 ^{かじやま とおる} 梶山 徹 先生

座長

豊中市医師会 副会長 ^{かとう やすじ} 加藤 泰司 先生

内容

詳しくは裏面をご覧ください。

対象

医師

申込

要申込。7月9日(木)までに豊中市医師会にお申込みください。

●右下の二次元コードからもお申込みいただけます。

日本医師会生涯教育制度認定講座 2.0単位 (CC84:最新のトピックス・その他)

↓お申込みはこちら

申込先

一般社団法人 豊中市医師会

☎ 06-6848-1671 FAX 06-6848-1526

✉ tamura@toyonaka.osaka.med.or.jp



人生会議とACP

～Good LifeからGood Deathへ～

抄録

Advance Care Planningは世界的な潮流となっていますが、一番の問題点は定義が定まっていないことで、ACPの解釈が個人によって異なるため医療現場に混乱が生じています。ACPの目標はGood Life（「より良く生きる」）とGood Death（「より良く逝く」）であり、目的は「患者/家族のQOL向上」となります。医療者は事前指示の取得によるGood Deathを重視しているのですが、患者/家族の望みはGood Lifeの実現であり、乖離が生じているわけです。

米国で行われた大規模比較介入研究では、「早期に事前指示を取得しても、患者のQOL向上にはつながらない」という結論が得られているため、「Good Deathから介入するACP」は患者ニーズにもエビデンスにも合致しないものになります。緩和ケアは「全人的苦痛の緩和」と「患者の希望実現」を二本柱としているのですが、これは患者のGood Life実現に大きく寄与します。

ACPの実践に当たってはまずは患者の希望に沿ったGood Lifeの実現を目指すべきであり、患者と医療者が対話を繰り返すことによってラポールが生まれれば、Good Deathの相談は患者側から持ちかけて来るようになります。したがって「Good Lifeを実現するため、一緒に話し合いたい」という医療者側の意向を、介入早期に患者/家族に伝えることがACPの第一歩となります。ACPは生命に関わる疾患を有する患者を対象としているのですが、人生会議は健常人をも対象としたものであり、「自分はどう生きるべきか」を各人が考えるAdvance Life Planningと呼ぶべき概念となります。

講師： 梶山 徹（かじやま とおる）先生ご略歴



梶山 徹 先生

1982年 和歌山県立医科大学 医学部 卒業

1996年 京都大学大学院 医学研究科内科系専攻課程修了 医学博士

天理よろづ相談所病院 消化器内科医員、京都大学 総合診療部 助手、
関西電力病院 消化器内科部長、緩和医療科部長、心療内科部長（兼務）、
緩和ケアセンター長を経て、

2019年から公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院緩和ケア科部長
〔所属学会〕

日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、

日本スピリチュアルケア学会、日本内科学会

〔資格〕

日本緩和医療学会緩和医療専門医・指導医、公認心理士